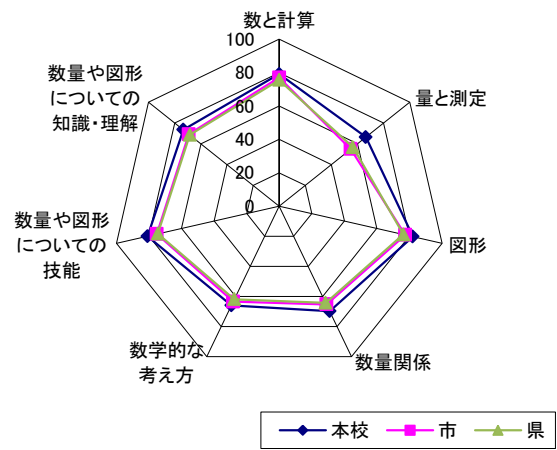


宇都宮市立横川西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	79.1	77.0	75.6
	量と測定	66.3	54.8	56.5
	図形	82.1	77.4	76.3
	数量関係	69.9	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	66.0	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	80.8	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	73.5	69.1	68.4



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「小数÷整数」、「数直線上の分数の表し方」は正答率が市平均を10ポイント以上上回った。 ●「商に空位があり、あまりを出すわり算」の正答率が64.2%で市平均を5.4ポイント下回った。 ●「倍とわり算の文章問題を表した図を選ぶ」問題の正答率が70.5%で市平均を5.7ポイント下回った。	・わり算では、商を概数で求める問題やあまりを出す問題で誤答が見られるので、意図的・定期的に習熟を図る指導を繰り返したい。 ・数直線の活用については、今後もその都度指導を継続し、表し方の習熟を図っていききたい。 ・計算については、正確さやスピードで個人差が大きくなってきているので、TTを活用し個別に支援していききたい。
量と測定	○面積に関する問題はどれも市平均を大きく上回った。	・面積の単位の変換や身近なものの面積の類推については、正答率が50%前後であるため、いろいろな場面で意図的に話題に挙げながら、変換したりイメージしたりできるように支援していききたい。
図形	○「立方体の見取り図をもとに辺の平行関係がわかる」ことや「ひし形の作図」の正答率は90%を超え市平均を大きく上回った。 ●「四角形の対角線の理解」の正答率は60%で市平均を1.5ポイント下回った。	・作図の正答率が高いが個人差があるので、今後も個別に指導を継続していききたい。 ・図形の性質については、その都度踏み込んで指導を行い、具体的操作をとおして理解できるようにしていきたい。
数量関係	○「伴って変わる二つの数量の関係を式に表す」ことは正答率74.7%で市平均を17.1ポイント上回った。 ●「二次元表の読み取り」も正答率74.7%であるが、市平均を2.2ポイント下回った。	・複合図形の面積を求める問題は、自力で立式して求めることはできても、既成の式の中から選択することが苦手な傾向が見られるので、式の意味を考えさせながら立式したり計算したりできるように指導していききたい。 ・問題文を理解する上で、図に描いたりイメージを持ったりしながら考えられるように助言していききたい。